

地域づくり活動の行動計画

諏訪赤十字病院

2024年度
第1回地域緩和ケア連携調整員研修 ベーシックコース

【チームメンバー】

参加施設・所属	氏名(職種)
諏訪赤十字病院 麻酔科/緩和ケア内科	平林 高暢 (医師)
諏訪赤十字病院 がん診療部門 緩和ケアチーム	西 庸丈 (看護師)
諏訪赤十字病院 患者支援部門	小泉 晴恵 (看護師)
諏訪赤十字病院 医療福祉課	小林 千夏 (MSW)

① 選定した地域の課題

日頃より地域の医療機関や訪問看護ST等との連絡会や事例検討会を開催し、顔の見える関係づくりを心がけているが・・・

1. 本人や家族の意向（意思）を尊重した療養場所選択への意思決定支援をする（BSCを選択したけど、本当はまだ治療を続けたかった。本当は家に帰りたいかったけど、家族の負担になるからこのまま病院で最期まで。などの事例から）
2. 在宅療養やPCUへ転院した患者さんのその後についての情報交換や入院中の関わり（薬剤調整、介入時期、転院時期等）について振り返る機会をつくる
→自分たちの関わりがどうだったか評価（質の評価）できていない

② どんな地域を目指すのか

- 本人や家族の意向（意思）が尊重され、希望する療養場所での療養ができるよう、連携施設と情報共有されている
- 連携している施設などに関わりについて、気軽に振り返りや情報共有することができる

③ 目指す地域を実現するために取り組むべきこと

<課題1に対して>

- 適切な時期（診断時・治療変更・状態変化時など）に、どこでどのように過ごしたいのかについて確認する（誰が主体でやっていくことがいいのか検討が必要）
- 外来通院時、入院時などのICや情報収集時に意向について確認する（入院前オリエンテーションの場を活用）
- 情報共有シートや地域の医療従事者と密な連携を図り情報を得る
- ACPを推進していくために、地域の医療従事者とも連携して本人・家族の意向（意思）を確認する仕組みづくり

③ 目指す地域を実現するために取り組むべきこと

<課題2に対して>

- ・ 現在実施している、地域緩和ケア連絡会や事例検討会の場を活用し、情報共有をする
- ・ 気軽に意見を伝えあえる雰囲気づくり
- ・ 情報交換ツールを作成する

④ 具体的な行動計画と⑤ 目標達成時期

※コンセプト：既に取り組んでいることは継続し、問題点を改める

<課題1に対して>

- (1) 患者家族の意向について記録に残す→現状継続
日頃の関わりの中からACPにつながる記録を残し、
表示するルールをつくる→年度内
- (2) 既にあるACPに関する取り組み（医師会主催）を周知
- (3) 本人や家族の意向（意思）確認することをスタッフへ
意識づけるために、退院支援CFや退院前CFを活用する
→次年度
- (4) 地域と病院で働くスタッフ間で情報共有できる場を作る
→現状の情報共有シートの活用は選択肢

④ 具体的な行動計画と⑤ 目標達成時期

※コンセプト：既に取り組んでいることは継続し、問題点を改める

<課題2に対して>

- ・地域緩和ケア研究会（事例検討会）を活用してフィードバックし合う（お互いを感じていることや困っていることを意見交換する場を設ける）→2025年2月開催の会から